

# キープランの例

建物のキープランは、その建物をどのように管理、運営していくのかを明確にし、その目的に従って各扉の施解錠の計画と、キーそのものの管理計画を立案する必要があります。また、建物の将来の増改築や錠の交換（テナントの入れ替え等）の計画を考慮した上で、キープランを確定し、規模を設定する必要があります。

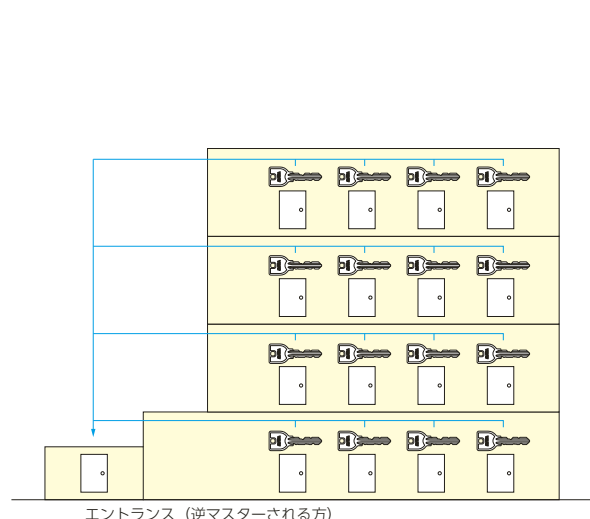
## 1.集合住宅のキープラン例

集合住宅においては、共通出入口（エントランス）を設置する場合、防犯のために各住宅入口の子カギでエントランスの錠前を施解錠できるシステム（逆マスターシステム）が一般的です。また、分譲マンションには通常マスターを付けず、賃貸マンションはマスターキーを付けることがあります。

### ①一般的逆マスターシステム

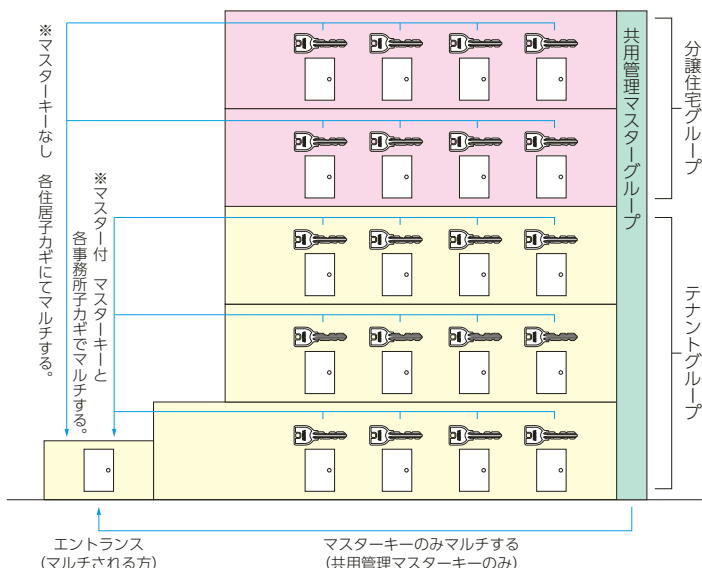
各住居入口の子カギは逆マスターする方、エントランスの錠前が逆マスターされる方です。

※オートロックシステムを採用する場合は、電気錠やキースイッチが逆マスターされる方となります。



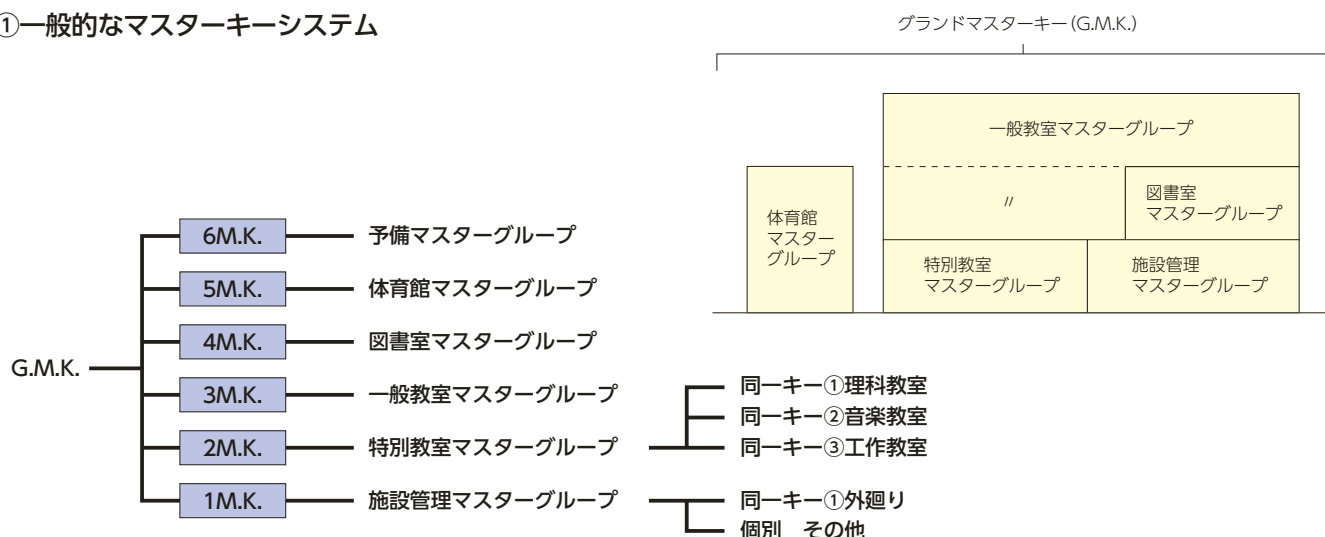
### ②マルチマスターキーシステム

テナントグループのマスターキーと各子カギ、分譲住宅グループ（マスターなし）の各子カギ、それに単に管理マスターキーでもエントランスを施解錠しようとする場合、マルチマスターキーシステムとなります。



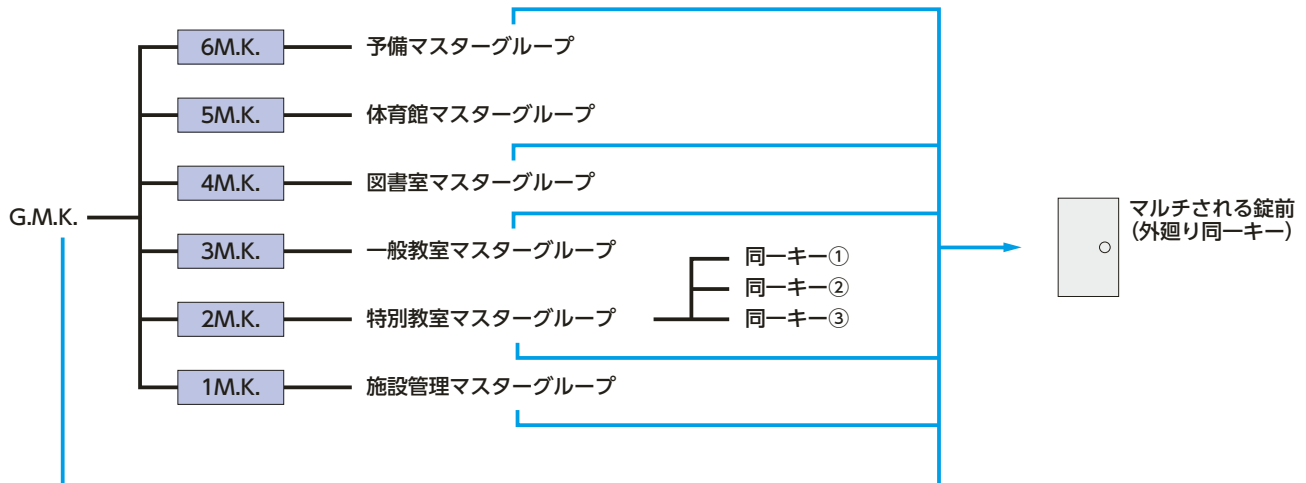
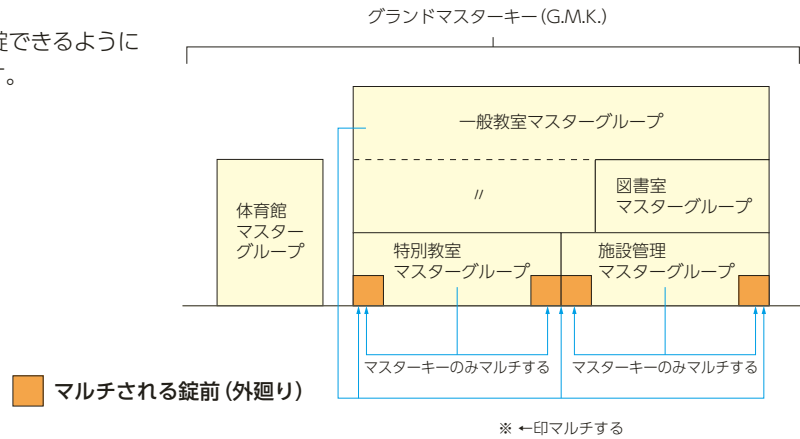
## 2.学校のキープラン例

### ①一般的なマスターキーシステム



## ②マルチマスターキーシステム

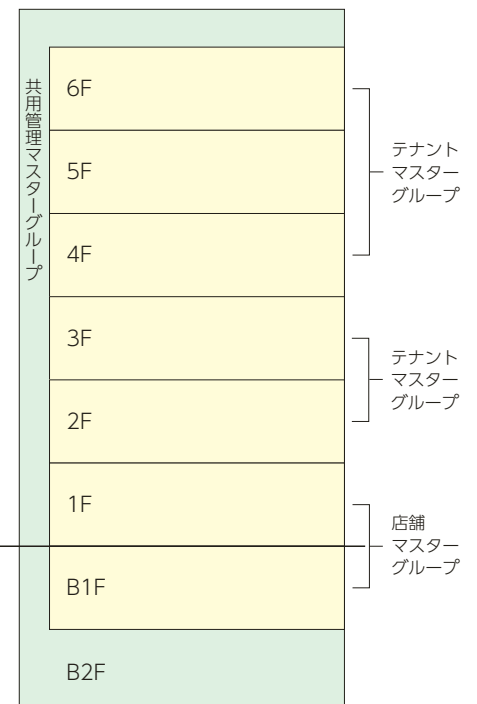
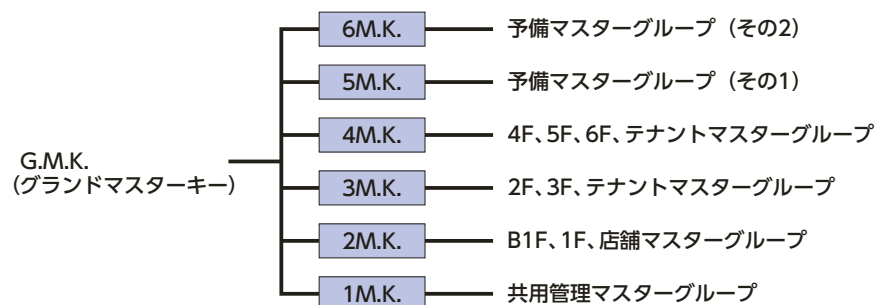
学校の外廻りの出入口を、各マスターキーでも施解錠できるようにする場合は、マルチマスターキーシステムとなります。



## 3. オフィスビルのキープラン例

### ①一般的なマスターキーシステム

テナントビルの場合は、テナントごとのマスターグループと管理用のマスターグループに大きく分けられ、さらに全体にグランドマスターをかけることもあります。



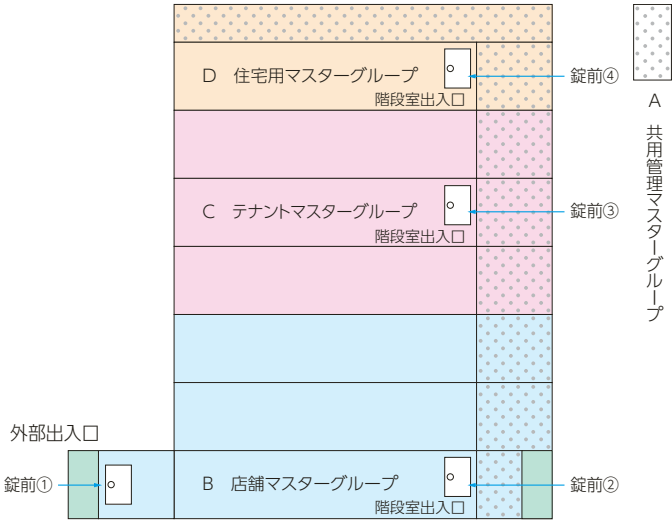
# キープランの例

錠前の  
基礎知識

## ②複合ビルのマルチマスターキーシステム例

複合ビルの場合は、通常のテナントビルと異なり、管理される部分かなり重複したマスターグループによって管理される場合があります。この場合はマルチマスターキーシステムとなり、次の例のようにグループ分けされます。

- 錠前①＝ 共用管理マスターキー・店舗マスターキー・テナントマスターキーと各子カギ・住宅用マスターキーと各子カギで施解錠できる錠前
- 錠前②＝ 共用管理マスターキーと店舗マスターキーの両方で施解錠できる錠前
- 錠前③＝ 共用管理マスターキーとテナントマスターキーと各子カギの両方で施解錠できる錠前
- 錠前④＝ 共用管理マスターキーと住宅用マスターキーと各子カギの両方で施解錠できる錠前



キー群  
(マルチする方)

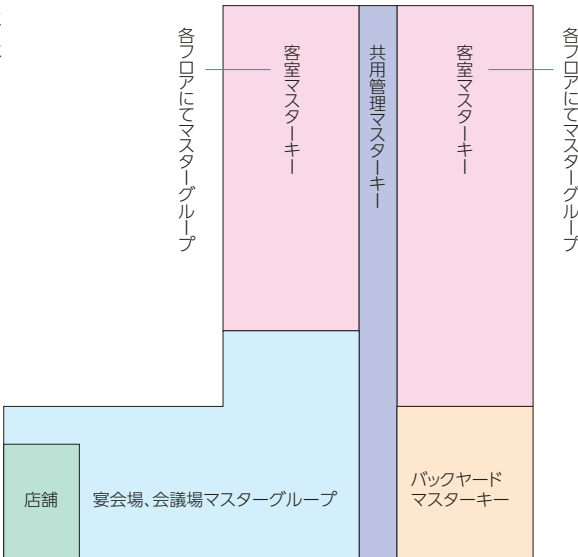
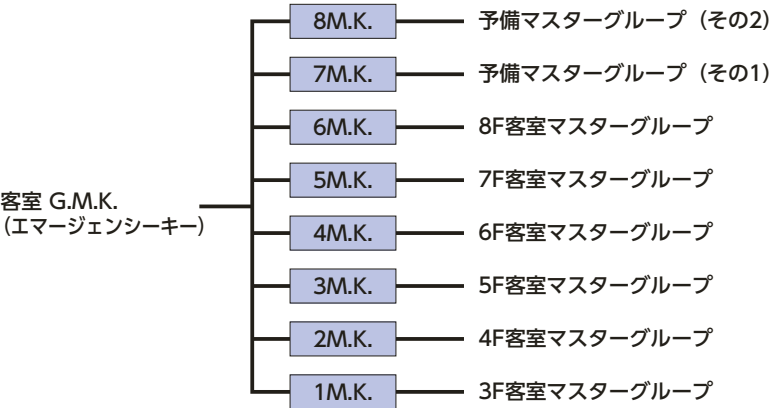


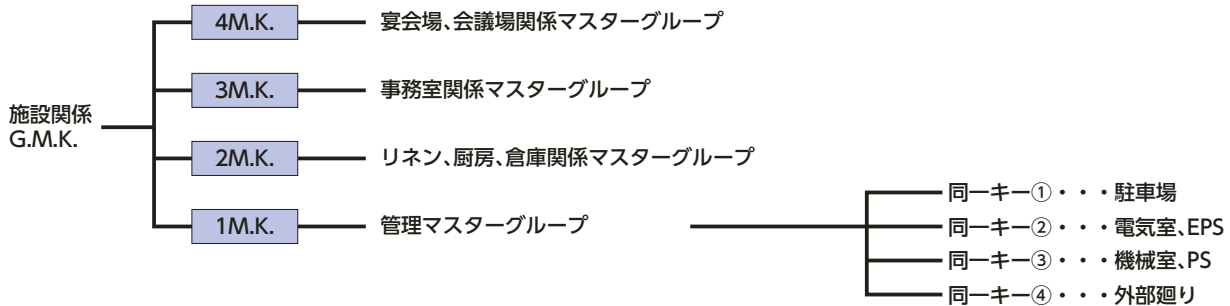
錠前  
(マルチされる方)



## 4.ホテルのキープラン例

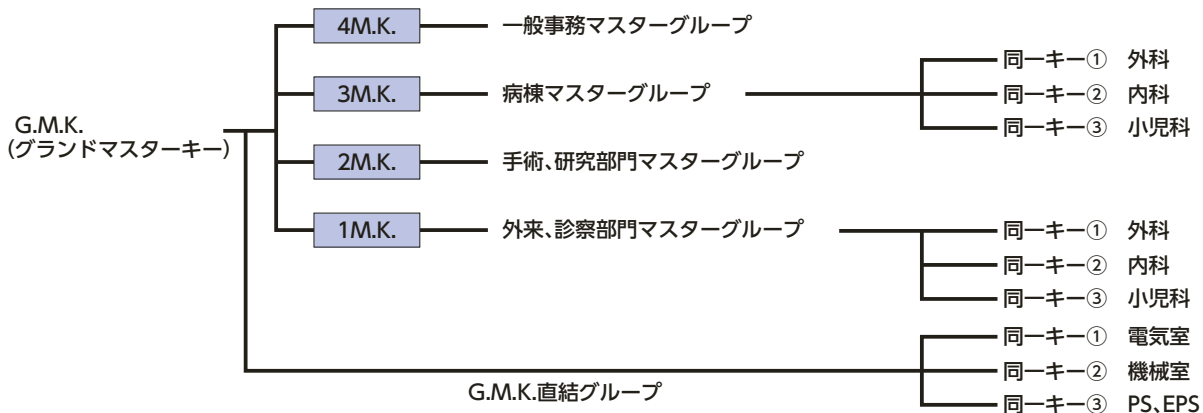
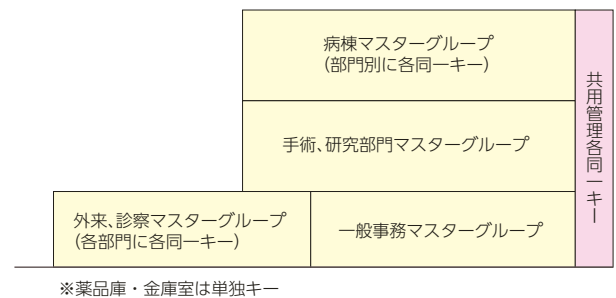
ホテルの施錠計画は、客室部門とその他施設部門とに大きく分けて管理する傾向にあります。客室部門についてはメイドキーとしてフロアマスターキーを、また非常時に備えて管理責任者が保管するエマージェンシーキーを設定することになります。





## 5.病院のキープラン例

病院はいくつかの部門に分けて、マスターキーによって管理されます。さらにその中でも、特定の人がいくつかの出入口を同一キーで管理する場合があります。



薬品庫、金庫室はマスターグループから完全にはずして管理するのが一般的です。

※ G.M.K.直結グループとは、G.M.K.で直接管理するグループのことをさします。

## マスターキーシステムの登録に必要な条件

### 1. 工事名称：正式な工事名称

※仮称の場合は、(仮称) ○○○○○○

※改修工事の場合は、○○○○○ (改修工事)

※改修工事の場合は、本体建設業者名と新しく改修する建設業者名を両方とも記入してください。

### 2. 住所：必ず「住居表示住所」を住所としてください。

### 3. 施工業者：施工会社名と連絡先、担当者名

※共同企業の場合は、スポンサー名、メンバー名もあわせて入れてください。

### 4. マスターキーシステム

※錠前の製作指示と同時にマスターキーシステムの計画書を添えてください。また、その計画を事前に弊社まで連絡していただければ、より早く正確な登録が可能です。

(注) マスターキーの追加注文の際はお施主様の念書が必要となります。